

月刊

300



地図と学ぶ

通巻

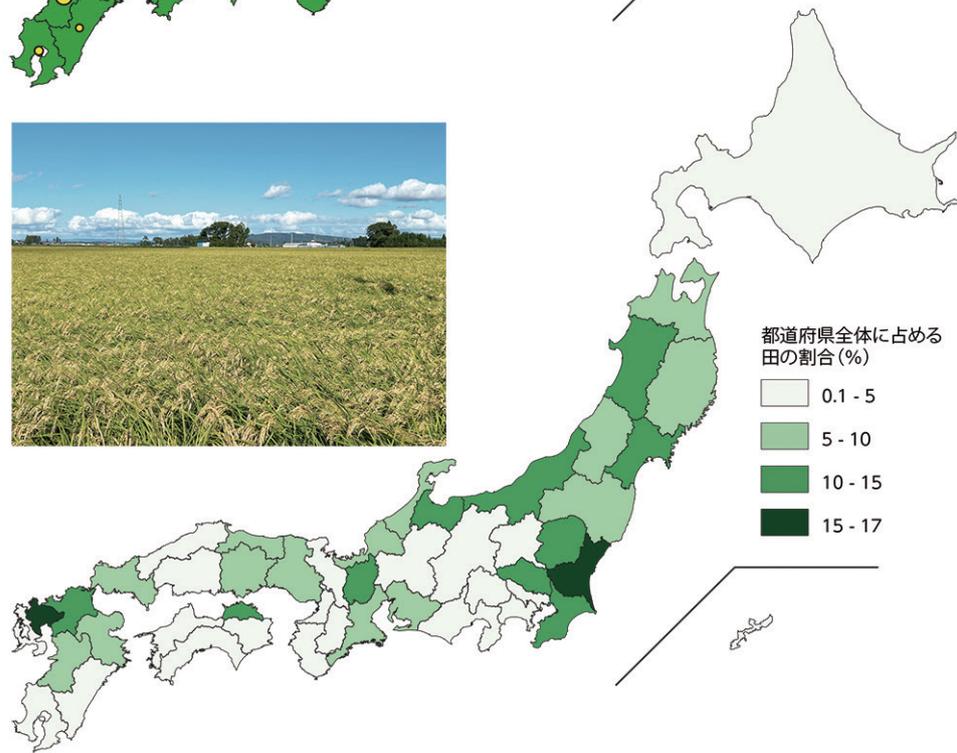
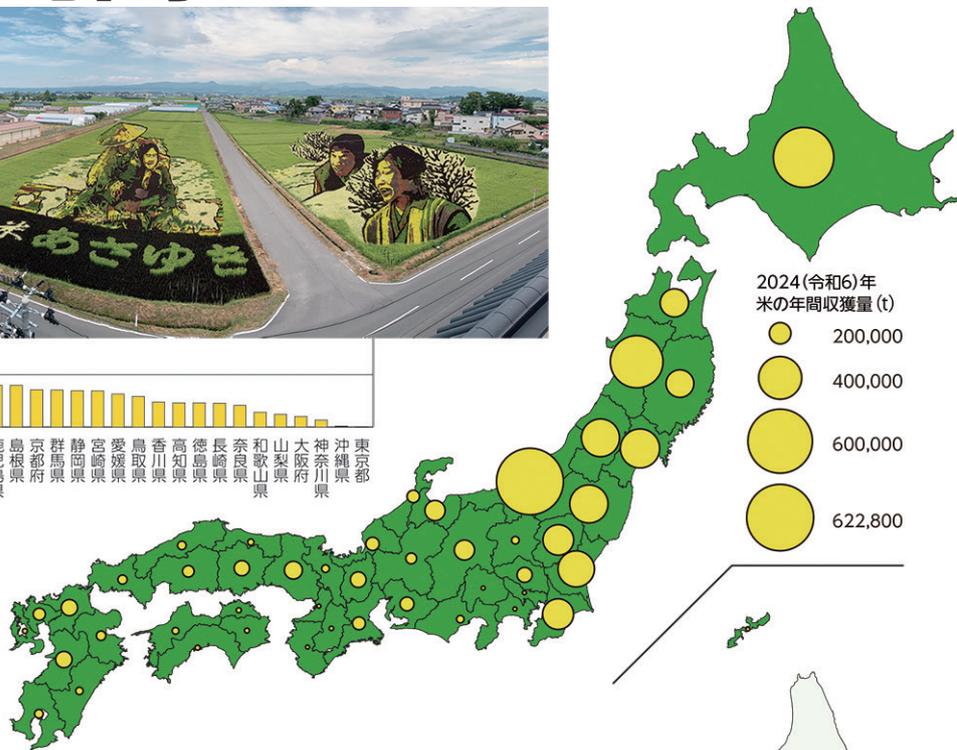
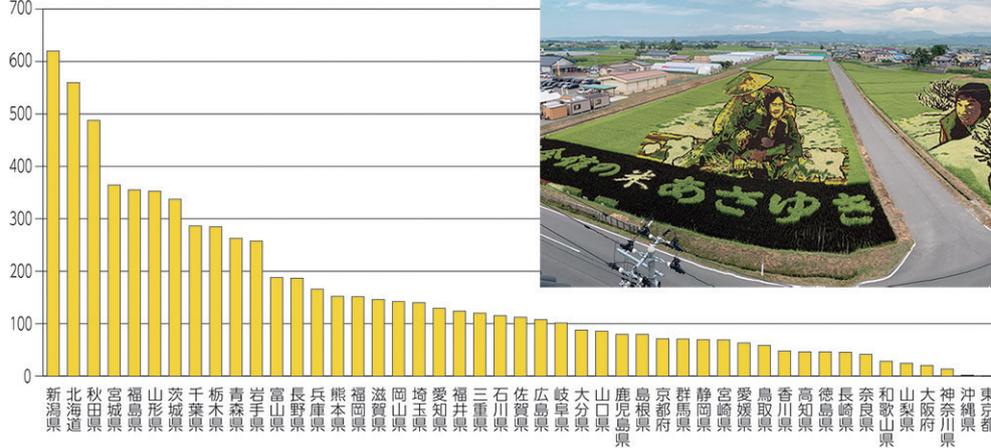
637

2025年10月

地図中心

特集 米づくり風土記 — 稲作列島のいま —

2024 (令和6) 年 米の年間収穫量



地図中心 637号 目次【特集 米づくり風土記—稲作列島のいま—】

日本における米価の変動と産地間競争の現局面	佐々木 達	3
東北地方における稲作の地域差と米の品種選択—青森県津軽地方を中心に—	庄子 元	6
鳴子の米プロジェクトの実践に学ぶ生産者と消費者の関わり	宮地 忠幸	10
米はどこで穫れるのか～東京でも米は穫れる？～	高田 明典	14
ドローンと歩む、新しい米作りのカタチ	田中 圭	16
体験を通して中山間地域農業を学ぶことの教育的意義	中村 博	20
近現代日本の主食材料の地域的多様性と歴史的变化	清水 克志	24
土地利用区分における田の分布図	編集室	28
水稻統計データ 収穫量と作付面積	編集室	30

【連載】

《地図づくり最前線 028》 走行中に気象や道路状況のデータを提供するDMPの自動走行支援システム	片岡 義明	34
《日本百名山が見える鉄道 見えた鉄道 24》 吉都線から霧島山	清水 長正	36
《歴史舞台地図追跡 98》 江戸・東京をめぐる虚像と実像 (其の廿巻)	谷口 榮	38
《地図を片手に大地を駆ける 92》 QGISとベクトルタイルを活用したロゲイニング用地図作成 その2	柳下 大	40
《ベクター地歴地図孤軍奮闘記 65》 落語の舞台と地図の背景 2	小島 豊美	42
《地図心中 復活版 41》 絵解き— 38 メディア取材の裏話？	高橋 美江	44
《地図教育の道具箱 40》 「地理総合」教科書における氷河地形の取り扱いと地理地図の活用 —わが国近代地理学の父・山崎直方博士の「山崎カール」を中心に—	佐藤 亨	46
《地図四方山話 13》 住民の証言記録から見た1947年カスリーン台風	船引 彩子・寺島 玄	48
新刊地形図案内 50 / 今月新刊の見どころ！・日本地図センター便り 51 / 編集後記・次号予告 52		

《表紙》

写真：中上・青森県田舎館村の田んぼアート（庄子元撮影） / 左上・鳴子地区川渡集落の水田景観（「お米のなみだ」の撮影地の一つ）（2024年8月※） / 左下・大崎平野の居久根と水田景観（2024年9月※） / 右・大崎平野の水田景観（鳴子地区の中山間地域農村とは異なる平地農村の景観）（2024年9月※）
※宮地忠幸撮影
地図：「全国都道府県市区町村別面積調」令和7年（国土地理院）、「作物統計調査」「耕地及び作付面積統計」令和6年（農林水産省）を資料として作成。

一般財団法人日本地図センター

東京時層地図

Tokyo Jisou MAPS



『時層地図』は、同じ場所の古地図と現代の地図、過去に撮影された空中写真を切り替えて見比べることができるスマートフォン・タブレットアプリ。過去につくられた地図や空中写真を重ねて見ることで、地層のように土地の変遷を知ることができる、街歩きには欠かせない大人気の地図アプリです。

『東京時層地図』は、「文明開化期」「明治のおわり」「関東地震直前」「昭和戦前期」「高度成長前夜」「バブル期」と6時期の古地図のほか、過去撮影の空中写真に現代の地図・空中写真などを加えた19種類を収録しています。

iPhone

価格(買い切り)
1,900円(税込)
<https://www.jmc.or.jp/digital/app/iphone-tokyo-index/>



iPad

価格(買い切り)
2,500円(税込)
<https://www.jmc.or.jp/digital/app/ipad-tokyo-index/>



Android

価格(定期購読)
1週間110円, 1ヶ月220円, 1年860円(税込)
<https://www.jmc.or.jp/digital/app/android-tokyo-index/>



iPhone版とiPad版、Android版があり、それぞれで古地図の収録範囲が異なります。詳細はウェブサイトでご確認ください。



一般財団法人日本地図センター
<https://www.jmc.or.jp/>

為替レート変動等を理由に Apple inc. および Google LLC が 価格を変更する場合があります。

月刊 **地図中心**

◆「地図中心」は毎月10日発行です◆

1冊 880円 (税込)

地図倶楽部

◆紙版と電子版のご購読会員

年間購読1年間 **12冊**

プレミアム会員

6,600円 (税・送料込)

プレミアム会員 (シニア) 満65歳以上

5,500円 (税・送料込)

◆電子版のみのご購読会員 (紙版は送付されません)

地図倶楽部会員	会費 (税込)	入会資格
一般会員	5500円	なし
一般会員 (シニア)	4400円	満65歳以上
学生会員	2200円	学生または18歳未満の方

地図倶楽部事務局
map-club@jmc.or.jp 03-3485-5417

日本における米価の変動と産地間競争の現局面

佐々木 達

I はじめに

わが国のコメの需給関係は長期的にみれば緩和傾向にあり、それに伴って米価も下落基調で推移してきた。ところが、2023年秋ごろから米価は上昇傾向に転じ、2024年8月以降の米不足の懸念から小売店の店頭からコメが姿を消した「令和のコメ騒動」として報道がなされた(日本経済新聞 2024年9月1日付)。2024年の米価上昇の理由は、昨夏の猛暑による市場流通量の減少、円安を背景に膨らんだインバウンド消費の増加、麺類やパン類などの値上げによる消費拡大、8月に発表された南海トラフ地震臨時情報など様々な理由が指摘されている。しかし、米価の急騰は目新しい現象ではない。例えば、1993年の冷害に端を発したコメ不足は「平成の米騒動」と呼ばれ、米価の高騰をもたらした。また、東日本大震災の翌年の2012年と2013年も米価が上昇したのであった。

わが国では長期間にわたって生産調整(減反政策)の実施によって供給抑制が図られてきた。その下での米価変動、とりわけ米価下落の背景に関する代表的な見解は以下の3つにまとめられる。第一は、米価の下落は作付け過剰、新規需要米やMA米の主食用米市場への影響による供給過剰説である。第二は、米以外の穀物消費増加による需要縮小、デフレによる低価格志向を指摘する需要減退説である。そして第三には、過剰米の処理システムの機能不全や売れ残り回避のための過当競争が生じた米価下落とみる流通制度説である。これらの見解は、それぞれに説

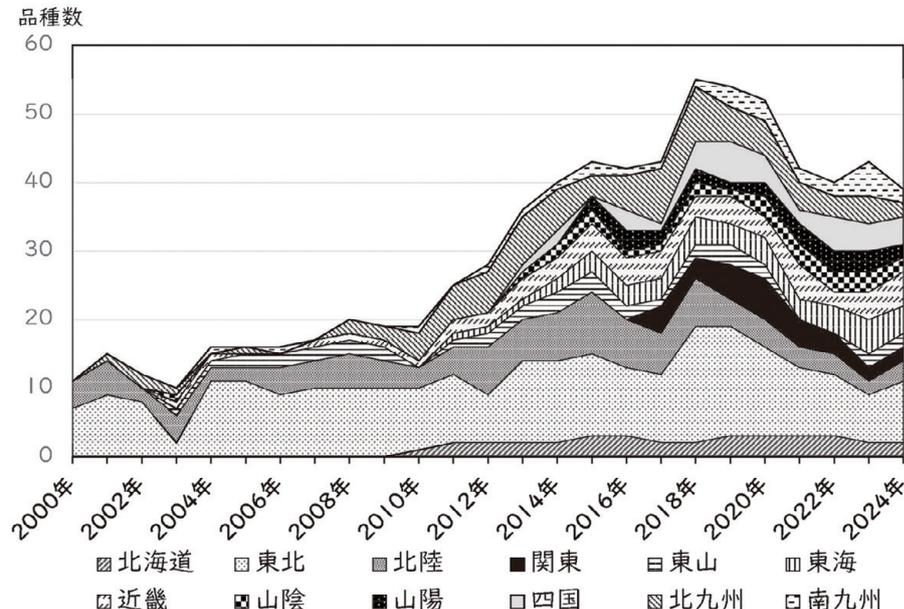
得力をもつものであるが、基本的には需給問題として取り扱ってきた。これらの需給問題に従えば、今回の「令和のコメ騒動」に代表される米価上昇は、供給不足、需要増大、在庫不足といったことが絡み合って生じたということになるが、問題は、なぜ米価の変動が繰り返されるのかという点である。コメの消費量の減少の下で生産調整政策によって供給を抑制的にしてきたにもかかわらず、米価が変動する理由は市場構造それ自体に問題を抱えていると考えられる。そこで、本稿は特集号の趣旨にかんがみて、わが国のコメ市場全体を概観し、米価の変動がいかなる論理で発生したのかを明らかにし、現在の産地間競争の動向を検討することを目的とする。

II 米価変動の背景とコメ市場

コメの価格形成に関しては、2011年3月までは全国米穀取引・価格形成センターが建値市場の機能を持っていた。しかし、現在は売手

である全農などの大手出荷業者と、買い手である民間の卸売業者の話し合いで決める相対取引価格が指標となっている。こうした下でのコメの価格形成は、生産者—JA全農(産地での概算金)、JA全農—卸売業者(相対取引価格)、卸売業者—小売業者(卸価格)、小売業者—消費者(小売価格)の順に、多段階流通によって行われていることに特徴を持つ。それに対して、コメの消費は毎日少しずつ消費されるため、予想外の需要の増加があったとしても、小売段階から卸売段階、産地段階までの情報伝達にはタイムラグが生じる。さらに、コメの供給に関しては、収穫が基本的に1年に1回であることから、需要や価格の変化に対して供給量は変化しないという特性を持つ。しかも、生産調整によって供給抑制傾向が続いていることによって、わずかな需要の増減によって価格が高低しやすい状況となっている。

また、産地段階では、特定品種への作付集中と栽培過程での食味向上



第1図 地域ブロック別の特Aランク獲得品種数の推移
資料：日本穀物検定協会



の取り組みが推進されている。第1図は、日本穀物検定協会が認定している特Aランクを獲得した産地・品種について、地域ブロック別に集計したものである。2000年以降の変化の特徴は、西日本における特Aの急増である。かつては、東北と北陸が大きな割合を占めていたが、全国的な特Aの米の増加の中で、東北を筆頭としてブランド米の急増と多様化の傾向を確認できる。食味ランキングの目的は、良質米づくりの推進とコメの消費拡大にあるが、供給抑制的な市場下において産地段階にとっては食味と品質を担保にしたブランドを通じた価格競争の手段となっていると考えられる。そのため、米生産量の増加が期待できない以上、限られた枠内で経済的地位を確保するための産地対応は、ブランド化による高品質・高価格帯の実現、もしくは安定的な品質による手ごろな価格帯による競争局面へとシフトしつつある。そのため、現在の米価高騰以前から、業務用米として取り扱われている低価格帯のコメの不足は、以前から指摘されていたのである。

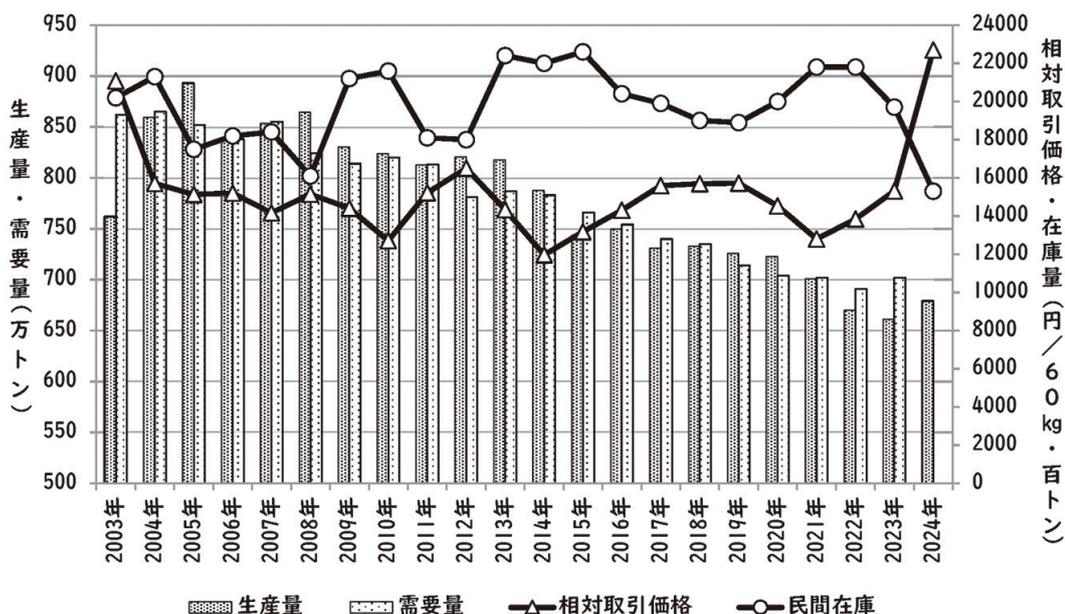
III 近年のコメの需給構造の特徴

まずは、わが国全体の米の需給の推移を見てみよう(第2図)。農水省は毎年、主食用米の消費動向に基づいて需要量を推計し、その需要に応じて目標とする生産数量「目安」を示してきた。その結果、コメの需要量は、2003年の860万トンから2023年の700万トンへと20年間で18.6%減少した。米の全銘柄平均相対取引価格は、冷害の年であった2003年に21,000円/60kgの高値を記録したが、それ以降は需要量を生産量が上回る傾向が続き、低下基調で推移してきた。

米価の推移で注目すべき年次は、2011年から2015年にかけての東日本大震災後の動向と2020年から直近にかけての動向の2時点である。2011年は東日本大震災による供給不安、需要量にほぼ見合った生産量であったため価格は上昇基調に転じている。ところが、2012年度は、需要量を28万トンほど上回る生産量であったにもかかわらず、価格は上昇した。一転して、2013年度

は需要量を上回る生産量によって相対取引価格は対前年比14.6%下落した。そして、2014年は最低価格を記録した2010年よりもさらに価格は低下し、2015年3月時点の全銘柄平均相対取引価格は対前年比19.5%下落し、12,000円/60kg程度であった。

2020年から直近の動向についてはコロナ禍の影響がうかがえる。2020年は需要量を19万トン上回る生産量であったために、米価は14,529円/60kg(前年比7.5%下落)となり、続く2021年も12,804円/60kg(対前年比11.8%下落)となった。感染症対策としての外出制限によって外食を中心とした需要の大幅な減少が背景にあったとみられる。それに対して、2022年産は、13,844円/60kg(対前年比8%上昇)、2023年産は15,314円/60kg(対前年比10.6%上昇)であった。ここでの特徴は、生産調整の強化によって、主食用米の生産量が2021年から2023年までの3年間で60万トン以上減少して2023年には661万トンと過去最少であったこと



第2図 米の需給と全銘柄平均相対取引価格・民間在庫量の推移

注1：生産量は水稻主食用収穫量

注2：需要量は前年7月から当年月までの需要実績である。

注3：民間在庫量は当年6月末現在の数値である。

注4：相対取引価格は当該年産出回りに対し翌年10月まで(2014年産は2月まで)の通年平均である。

資料：米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針(令和6年10月30日)

ことである。その結果、2024年には米価の急騰となって現れ、現在に続く高止まり傾向に至っているのである。

次に、こうした米価変動はどのような論理でもたらされたか、これを解くカギとして6月末の民間在庫量に注目する。在庫量の変動の特徴を米価と関連付ければ、当該年の6月末の在庫量が増加している場合には当該年産の米価は下落傾向にあり、在庫量が減少している場合には米価が上昇する傾向がみとれる。とりわけ、在庫量のうち出

編集後記

日本の米、稲作列島の東西南北端の水田を、地図記号を元に調べてみました。南端と西端は沖縄県、北端と東端は北海道でした。

◆南端：沖縄県八重山郡竹富町字南風見(西表島)：北緯24度16分8秒・東経123度52分23秒

◆西端：沖縄県八重山郡与那国町字与那国：北緯24度27分12秒・東経122度56

分58秒

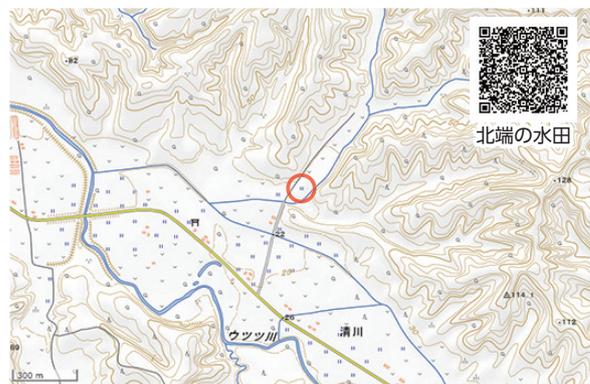
◆北端：北海道天塩郡遠別町字清川：北緯44度45分23秒・東経141度52分1秒

◆東端：北海道網走市字呼人よびと：北緯43度56分42秒・東経144度12分40秒

「日本最北の水田」には、説明板が設置してあり、「米づくりに携わる人々がたゆまぬ工夫と努力を続けていること」が理由の一つと記されています。

(編集長・小林政能)

(参照：遠別町Webサイト)



次号予告 2025年11月 通巻638号

毎月10日発行

地図と学ぶ月刊

地図中心 総特集 京成電鉄 そのダイナミックな変遷

大正時代の参詣電車から、海に向かう行楽電車、そして空港アクセス路線へ。東京と千葉を舞台に、時代ごとに大きく姿を変えてきた京成電鉄。

荒川放水路開削、沿線の文人ゆかりの別荘地、廃止された支線の記憶や駅名の移り変わりまで、まるまる一冊、地図で「京成電鉄」を徹底特集します！



バックナンバーのご案内

地図中心

検索

「地図倶楽部」へのご入会をお待ちしています! 03-3485-5417(事務局)

2025年9月号(通巻636)で、誤りがありました。訂正して、お詫び申し上げます。P.46~49: 地図6点中の各縮尺: 4km⇒1km

地図中心

2025-10 通巻637号

発行 2025年10月10日

発行所 一般財団法人日本地図センター

〒153-8522

東京都目黒区青葉台4-9-6

電話 03-3485-8125

FAX 03-3485-5593

(月刊「地図中心」編集室)

メール chushin@jmc.or.jp

URL https://www.jmc.or.jp

©一般財団法人日本地図センター

定価 880円(税込)

印刷所 昭栄印刷株式会社

地図と学ぶ月刊誌



本誌の一部あるいは全部を無断で複写・複製・転載することは、法律で認められた場合を除き、禁じられています。



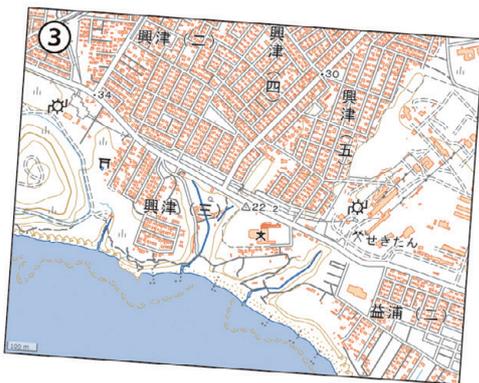
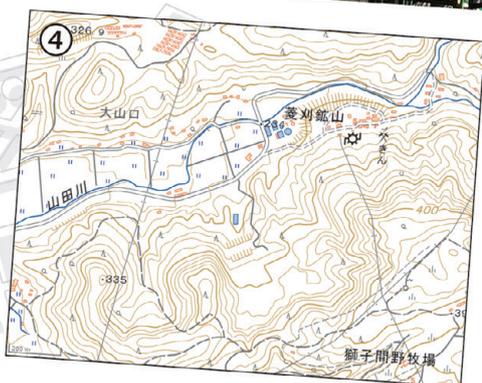
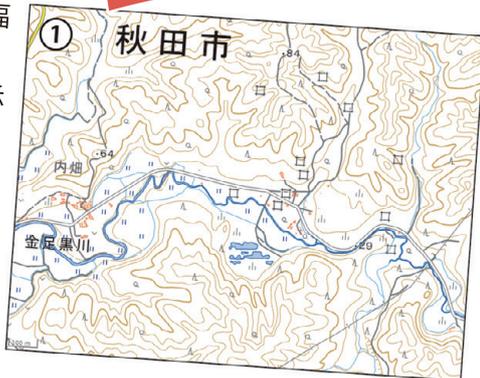
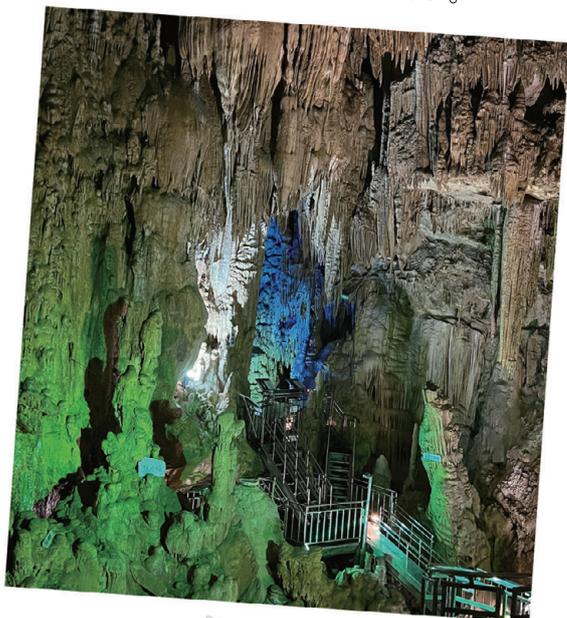
地図地理検定

「ちずけん」で地理総合

かこもん
(基礎)

第39回出題
問10
正解率 86.8%

次の写真は、カルスト地形の一種である福島県のおぶくま洞内部を撮影したものです。地理院地図①～④のうち、カルスト地形を示しているものを1つ選びなさい。



詳細を
Check!



地図地理検定
私も推薦します!

等高線や地図記号の意味
を知れば、地図に描き込
まれた無限の情報が理解
できます。

地図大使
石原良純さん



検定実施日
2025年
11月9日

申込締切：10月下旬 (詳細はウェブサイトアクセス!!)